

## 「クリスチャン」とはどんな人々のことですか

Χριστιανούς  
クリスティアノス

「キリスト」とは「油注がれた者」という意味であり、その弟子たちがクリスチャンと呼ばれているのは、キリストの追随者、キリストに与るものだからです。「クリスチャン」を日本語に訳すと一般には「キリスト者」と訳されています。そのまま「油注がれた者」という意味になります。単にイエスの弟子、あるいはイエスの追随者とではなく、「クリスチャン」と呼ばれるのは油注ぎを受けて、自らも油注がれたものに与るものだからです。

つまり聖書的に言って「油注がれていない者」を「クリスチャン」と呼び得ないということです。

(ローマ 8:9,14-16)「しかし、神の霊があなた方のうちに真に宿っているなら、あなた方は、肉とではなく、霊と和しているのです。けれども、キリストの霊を持たない人がいれば、その人は彼に属する者ではありません。

神の霊に導かれる者はみな神の子であるからです。あなた方は、養子縁組の霊を受けたのであり、わたしたちはその霊によって、「アバ、父よ！」と叫ぶのです。『霊そのものが、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子供であることを証ししています。』

この聖句によれば、霊を持たない人はキリストに属するものではありません。すなわちクリスチャンではありません。ここで霊を持っているとは単に「キリストのような精神態度を抱いている」ということではなく神からの霊が「宿って」いる、つまりこの「霊」とは霊で油注がれた際の霊について述べています。

「油そそがれた」とは、油が天から降ってくるわけではなく、神から聖霊を分け与えられるということです。

これこそが、「真理の霊が到来するとき、あなた方を真理の全体へと案内する」と言われた、約束のものであり、「来るべきもの」と表現されているものです。

(コリント第二 1:21-22)「あなた方とわたしたちがキリストに属することを保証してくださる方、そしてわたしたちに油をそそいでくださった方は神です。[神]はまたわたしたちにご自分の証印を押し、来たるべきものの印、つまり霊をわたしたちの心の中に与えてくださったのです。」

(エフェソス 1:13 - 14)「しかしあなた方も、真理の言葉、すなわちあなた方の救いについての良いたよりを聞いた後、この方に望みを置きました。そして信じた後、やはりこの方により、約束の聖霊をもって証印を押されたのです。」

当然と言えば当然なのですが、キリストに属していない者をクリスチャンと呼ぶことはできない。ということです。それで聖霊で油注がれるとは「あなたをクリスチャンとして認めました」という神の証印を押されるということです。

(使徒 10:34 - 38) …「わたしは、神が不公平な方ではなく、どの国民でも、[神]を恐れ、義を行なう人は[神]に受け入れられるのだということがはっきり分かります。

この不公平なく「受け入れられる」ことは何によって明らかになったのでしょうか。後を読むとそれが分かります。

44 ペテロがまだこれらのことについて話しているうちに、聖霊がみ言葉を聞いているすべての人の上に下った。

この油そそぎである聖霊がないとすると、祈りに関する重大な影響が出てきます。

(ローマ 8:26 - 27) …霊もまたわたしたちの弱さのために助けに加わります。[ 祈る ] べきときに何を祈り求めればよいのかをわたしたちは知りませんが、霊そのものがことばとならないうめきと共にわたしたちのために願い出てくれるからです。それでも、心を探る方は、霊の意味するところが何かを知っておられます。それは神にしたがいつつ聖なる者たちのために願い出ているからです。

聖霊を受けていないなら、うめくことはあっても、「願い出てくれる「霊」をもっていないこと」になります。続く 28 節でパウロはそうした聖霊の働きは、「ご自身の目的にしたがってお召しになった者たちの益のために、神がそのすべてのみ業を協働させて」いるものだと言っています。つまり、クリスチャンの益とその存続はその人と聖霊の働きの協働によるということです。

## 聖霊は無償の賜物

(使徒 2:38 - 39) …あなた方ひとりひとは、罪の許しのためにイエス・キリストの名においてバプテスマを受けなさい。そうすれば、無償の賜物として聖霊を受けるでしょう。

この約束はあなた方とあなた方の子供たち、また遠く離れたすべての人、わたしたちの神エホバがそのもとに召される人すべてに対するものなのです」。

聖書は無償の賜物として聖霊、それは、全ての人、全ての人、全ての・・・と終始一環くり返し、そう述べています。しかし、私たちの理解はそうではありません。神エホバがそのもとに召される人 [ すべて ] のうち、限定、先着 1 4 万 4 千名様に対するものなのです」。

(ローマ 3:22) …イエス・キリストに対する信仰による神の義であり、信仰を持つすべての者のためのものです。差別はないからです…

しかし「大群衆」のためにはありません。ともかく先着 1 4 万 4 千名様以降だからです。差別ではないのならば、あるのは区別です。

(エフェソス 4:4 - 6) …体は一つ、霊は一つです。それは、あなた方が自分たちの召されたその一つの希望のうちに召されたのと同じです。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべての者の神また父は一つであり、すべての上に、すべてを通し、すべての中におられるのです。

聖書は、[ 一つの ] 希望のうちに召された、と述べていますが、しかし現実には、大群衆はその希望に召されず、別の希望を与えられているのです。

ですから本当は、「希望は一つ 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」ではなく 「希望は二つ、主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」です

(ローマ 5:15 - 19)「一人の人の罪過によって多くの者が死んだのであれば、神の過分のご親切と、一人の人イエス・キリストの過分のご親切を伴う[神]の無償の賜物とは、**いよいよ多くの者**に満ちあふれるからです。・・・こうして、一つの罪過を通してあらゆる人に及んだ結果が有罪宣告であったのと同じように、正しさを立証する一つの行為を通してあらゆる人に及ぶ結果もまた、命のために彼らを義と宣することなのです。一人の人の不従順を通して多くの者が罪人とされたのと同じように、一人[の方]の従順を通して**多くの者**が義とされるのです。」

「いよいよ多くの者」ということですが、14万4千という数字はそれほど多い数字なのでしょう。この言葉はアダムの違反による死者と比較して語られています。そのスケールからいって14万4千はいよいよ少ない、まるで少ない、極端に少ない人に「満ちあふれる」ようになっているのでしょうか。聖句がおかしいのでしょうか、それとも理解の仕方が間違っているのでしょうか。どちらかであることは確かです。

さて人数もそうですが、ここで強調している無償の賜物は「義と宣せられる」ということです。

「神の自由の子となつてうける永遠の生命」の391頁

「全能の神の大いなる日の戦闘に生き残った「大群衆」は千年統治の間に、肉の体の中に絶対的な義と完全性を得ることになるでしょう。彼らはその永遠の父であるイエス・キリストを通して完全な人間の子供となろうとします。(イザヤ9:5、6) そのような訳で彼らは、14万4千人の天的な共同相続人たちが肉の体にあるうちから義とされたのと異なり、現在あるいはその時(ハルマゲドン後)に正しいとされたり義と宣せられることはありません。「大群衆」は人間から霊的な存在へとその性質を変化しませんので、信仰によって義と宣せられることも、14万4千人の「選ばれた者」に必要とされる帰負された義も必要ないのです。」

この大群衆級の人々にはパウロが繰り返し説いた「信仰により義と宣せられる」ことも「神聖な者とされる」こともない。これらはすべて蚊帳の外なのです

パウロはコリント第一の9章で「聖なる者たちへの奉仕」について述べ、その最後に、そのことを「言いつくしえぬ無償の賜物」と表現しています。

\*\*\* 洞 - 1612 ページ 神からの賜物 \*\*\*

神の「言いつくしえぬ無償の賜物」には明らかに、神がイエス・キリストを通してご自分の民に差し伸べておられるすべての善良さや愛ある親切が含まれています。

しかしこの「聖なる者たちへの奉仕」も直接には「聖別された」油注がれた人々に対するもので、大群衆の奉仕は間接的に、彼らに与えられた業を援助する協力者であり、「言いつくしえぬ無償の賜物」も霊的イスラエル人の受けるものであり、大群衆に与えられたものではないのです。

\*\*\* 塔 02 2/1 21 ページ 11 節 あなたは「真理の霊」を受けていますか \*\*\*

油そそがれた者はすでに、極めて特別な仕方で神聖なものとされています。キリストの花嫁として義と宣せられ、聖なる者と宣せられているのです。(ヨハネ 17:17。コリント第一 6:11。エフェソス 5:23-27) 預言者ダニエルはその人たちを「至上者に属する聖なる者たち」と呼んでいます。その人たちは「人の子」キリスト・イエスの治める王国を受けます。

言い換えますと、大群衆は殊更に何ら神聖なものとされることもなく、キリストの花嫁として義と宣せられることは当然なく、聖なる者と宣せられてなどいません。

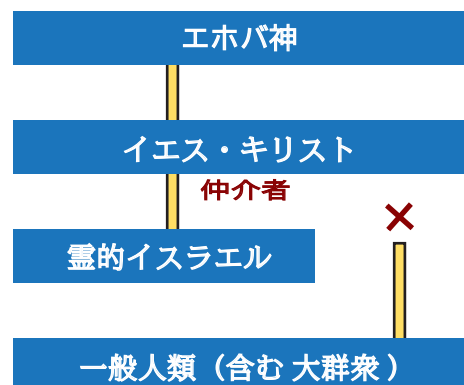
預言者ものみの塔はその人たちを「至上者に属さない聖なる者ではない者たち」と呼んでいます。その人たちは「人の子」キリスト・イエスの治める王国を受けません。

キリストは大群衆の仲介者ではない???

\*\*\* 安 1 章 10 ページ 16 節 世界的な平和と安全を求める願い \*\*\*

昔のイスラエル国民が仲介者モーセを通してエホバ神との契約関係に入っていたように、霊的なイスラエル国民、つまり「神のイスラエル」も一人の仲介者を通してある契約関係を持っています。それは、使徒パウロが仲間のクリスチャンの働き人に、「神はただひとりであり、また神と人間との間の仲介者もただひとり、人間キリスト・イエスで(す)」と書き送った通りです。モーセはエホバ神と一般の人類との間の仲介者でしたか。いいえ、モーセはアブラハム、イサク、ヤコブの神と彼らの肉の子孫との間の仲介者でした。同様に、大いなるモーセであられるイエス・キリストは、エホバ神と全人類との間の仲介者ではありません。キリストは天の父エホバ神と、わずか 14 万 4,000 人の限られた成員で成る霊的なイスラエル国民との間の仲介者です。

ここで、大群衆は「一般の人類」と同等に扱われています。大群衆はどちらかと言えば神の側の方にいるのかと思ったら、そうではないようで、一般全人類の中に含まれています。



\*\*\* 塔 96 9/1 14 ページ 4 節 キリストの律法 \*\*\*

だれがこの新しい契約に入れられることになっていましたか。このたびの新しい「イスラエル」とは「神のイスラエル」、つまり霊的イスラエル人から成る国民です。霊で油そそがれたクリスチャンのこの小規模なグループには、あらゆる国民の中から来て、同じようにエホバを崇拜しようとする人々の「大群衆」が後に加わるようになっていました。新しい契約の当事者ではありませんが、これらの人々も律法に服します。

\*\*\* 塔 81 4 / 1 24 ページ 地上で最も偉大な人物の死を祝う \*\*\*

献身してバプテスマを受けてはいるものの、「大群衆」の人々は、自分たちが王国のためのその契約には入れられていないことを認識しています。彼らは、「新しい契約」に入れられていないので、霊的イスラエル人ではありません。「新しい契約」は、イエス・キリストを仲介者として霊的イスラエル人と結ばれたものです。西暦 33 年のペンテコステの日、エルサレムにいた 120 人の弟子たちに初めて聖霊が注がれるようになりましたが、「大群衆」の人々はその聖霊によって生み出されてはいません。

「彼らは、「新しい契約」に入れられていないので、霊的イスラエル人ではありません。」つまり「霊的異邦人です」彼らを予表していたのが、出エジプトの時にイスラエル人と一緒に川を渡った、異邦人からなる「入り混じった大集団」であり、「ユダヤ人である一人の者のすそをとらえる、諸国のあらゆる言語から来た十人の者たち」（ゼカリヤ 8:23）であるとされています。

\*\*\* 塔 80 2 / 15 27 ページ 23 節『神と人間との間のひとりの仲介者』から益を得る \*\*\*

霊的イスラエルの少数の残りの者に惜しめない協力を示す、献身してバプテスマを受けた「大群衆」が今日存在します。「王国のこの良いたより」を「あらゆる国民に対する証し」のため人の住む全地に宣べ伝えるという点で、霊的イスラエルの残りの者と歩みを共にしています。彼らは自分たちが、イエス・キリストを仲介者とする新しい契約に入っている霊的イスラエル人でも、「選ばれた種族、王なる祭司、聖なる国民」でもないことを認めています。—

\*\*\* 塔 79 9 / 1 31 ページ 読者からの質問 \*\*\*

● イエスは、油そそがれたクリスチャンだけの「仲介者」ですか。

「仲介者」という言葉は、クリスチャン・ギリシャ語聖書中に六回だけ出て来ます。そして聖書的には、常に正式の契約と関連して用いられています。

モーセは、神とイスラエル国民との間で結ばれた律法契約の「仲介者」でした。

しかしキリストは、エホバ及び王また祭司として天でイエスと共に仕える「神のイスラエル」、つまり霊的イスラエルとの間の「新しい契約の仲介者」です。

神がこの新しい契約に入れられる人々を選んでおられた時、使徒パウロはキリストが『神と人間との間のただひとりの仲介者』であると記しました。ここでパウロが用いた「仲介者」という語の用法は、当然のことながら、別の五つの箇所における用法と同じものです。それら五つの箇所は、テモテ第一 2 章 5 節を書き記した時点よりも前のもので、キリストが「仲介者」を務められた新しい契約にその当時入ろうとしていた人々に言及しています。ですから、このように厳密に聖書的な意味では、イエスは油そそがれたクリスチャンのためだけの「仲介者」です。

今日形成されている「ほかの羊」の「大群衆」は、その新しい契約に入ってはいません。とはいえ、契約にすでに入っている「小さな群れ」と交わることによって、大群衆は新しい契約からもたらされる益にあずかります。

結論：これらがすべて事実だとしたら、正真正銘、間違いなく「大群衆」はクリスチャンではないこととなります。なぜなら「油そそがれて[いない]」、「クリスチャン」などというものは存在しないからです。それは言うてみれば、「人間では[ない]日本人と言っているのと同じです。